

万華鏡

2026年がスタートしました。今年の目標は決まりましたか？

それぞれの目標に向かって、さあ、一步を踏み出しましょう！

図書室では、みなさんが読書の楽しさを知るきっかけとなるような本をたくさん紹介していきたいと思っています。



図書室からのお願い

◎ 3年生のみなさんへ

3年生は、2月から自由登校になります。図書の返却をしてない人は、
1月22日（木）までに返却してください。返却されない場合は、紛失扱いとし、
その手続きをしなければなりません。必ず期日までに返却をお願いします。



古本市

昨年12月17日（水）から12月19日（金）まで
図書室で「古本市」を開催し、盛況に終えることが
できました。

売上は、図書の購入に充てさせていただきます。
ご協力ありがとうございました。



雑誌頒布会

2/10日（火）～2/13日（金）夏休み・放課後

1年前の雑誌を配布します。

教室に放置することなく、必ず持ち帰ってください！

甲府商業高校 図書室
令和8年1月
NO. 7



新着本紹介

『見えない妻聴こえない夫』

篠原通良／著 中央公論新社

書籍紹介：目が見えない妻・高田千明と耳が聴こえない夫・高田裕士。ともにプロの陸上選手の夫婦は、息子に金メダルを掛けるため、パラリンピック、デフリンピックで闘い続ける。感動のノンフィクション。

『小泉セツとハーンの物語』

三成清香／著 少年写真新聞社

書籍紹介：NHKの朝ドラ、『ばけばけ』の主人公のモデル・小泉セツと、ラフカディオ・ハーンが、日本の「怪談」を文学作品にして世界に伝える物語。国際結婚がまだ珍しかった明治時代に、維新で没落した武士の娘セツと、両親に見放され欧米をさまよい日本にたどり着いたハーンが出会い、言葉が通じなかつたふたりが、日本の古い物語を英語の作品に仕上げ、怪談文学として世界に伝えていくまでを物語にしている。それぞれ苦しい生活を送つたふたりが、どのように心を通わせて、現代に残る名作を誕生させたのか、その秘密を探る。

『しずくと祈り「人影の石」の真実』

朽木祥／著 小学館

書籍紹介：原爆投下後、石段に焼きついた人影の真実。広島平和記念資料館に展示されている「人影の石」。それは、原爆の強烈な熱線で石段に残された黒い影。これはだれの影なのか？その人はどうしてそこにいたのか？原爆投下の後、その人はどうなったのか？「人影」がだれのものなのか、どうしてこのような形で残つたのか、当時の目撃情報、遺体を収容した兵士の証言などから解き明かす、真実をたずねて伝える物語。

- ★『慈雨の人』 伊予原新／著 新潮社
- ★『生きる言葉』 倭万智／著 新潮社
- ★『戦場の人事係』 七尾和晃／著 草思社
- ★『文章教室』 八木義徳／著 中央公論新社
- ★『春の星と一緒に』 藤岡陽子／著 小学館
- ★『編めば編むほどわたしはわたしになつていった』 三國万里子／著 新潮社
- ★『運命を変えるチャンスはなぜか突然やって来る』 今村翔吾／著 岩波書店
- ★『高校生のためのアドラー心理学』 岸見一郎／著 アルテ
- ★『13歳から身になる読書術』 大居雄一／著 メイツ出版
- ★『言語化するための小説思考』 小川哲／著 講談社
- ★『日本ご当地スーパー大全』 角田光代／著 新潮社
- ★『14歳のヒロシマ』 梶木淑子／著 河出書房新社
- など…



返却期限が過ぎていませんか？

夏休み前に借りた本を返していない人はすぐに返却しましょう。

